

# PERCUSSION

パーカッション

## 太鼓もバチも、地球も「丸い」

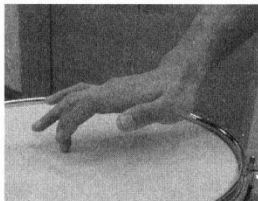


◆出身 長野県上田高校、東京芸術大学  
◆所属 名古屋フィルハーモニー交響楽団  
◆趣味 映画鑑賞、写真撮影、タップダンス  
◆血液型 O型  
◆星座 みずがめ座  
◆読者にひとこと 今日がダメでも、明日がある！  
◆手紙の送り先 Kubota\_perc@yahoo.co.jp

先月、「スティックでカウントをして、ちょうどいい感覚を知ろう」という話をしましたが、今回はスティックなしでもできる、楽器を鳴らす実験から始めます。

利き手の中指（爪ではなく皮膚で）を、スティックのチップ（先）だと思って、小太鼓の皮の上で弾ませてください（[写真1]）。

[写真1]



こんなふうに中指を立てて弾ませてみよう。このように中心でやる前に、まず端から始めると、音程感を感じやすい

どんな音が出ましたか？ スティックを使ったときよりは柔らかく、マレットよりは「はっきり」した、音程感のある音が出た人は、今回の前半は読まなくてOK（すぐにできる人は20人に1人くらい）。では、詰まった感じの「ペン、ペン」という音程感のない音が出てしまう人、それはなぜでしょう？ スティックと、皮膚の違いのせい？ それもそうだけど、実は他にも理由があるのです。

### ■弾み方を体感しよう

ふだんスティックを使って演奏していると、皮の上で跳ねることが当たり前ですが、それは君の力というよりは、スティックのおかげだよ（スティックさまさまです）。それなら、スティックに頼りっぱなしでなく、君の感覚（センス）を増すにはどうしたらいい？

君の気持ちをスティックに伝えたいければ、まずは君がスティックの感覚や気持ち（？）を知ってみよう。太鼓の皮が振動する原理は分かっているかな？ 「指が皮に当たる→皮が振動する→指が離れる」という流れです。この「→」の部分の時間が長くなるほど、振動を止めてしまうので、当たったらすぐ離したい。けれど、ガチガチに固めた腕をただ速く振っても、やり続けると疲れます。リラックスして、バスケットボールをバウンドさせる

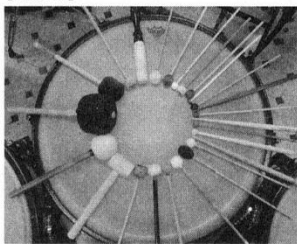
手の感じを思い出して、すぐにいい音が出なくても、気長にやってみてください！

この感覚が身につくと、「必要以上」に楽器を叩いてしまい、皮の表面にポコポコの跡をつけてしまったり、逆に「必要以上」に柔らかい「感じ」を演出しようとして、太極拳のような動きになったり……。などが必要ないことをわかってもらえると嬉しいです。その楽器の持つ「音色」を引き出す、最もシンプルな方法なので、体で覚えましょう。

### ■ボールの感覚が、演奏のヒント

跳ねるといえばボール。ボールといえば丸い……。よくよく見てみると、スティックやマレット、ピーターの先も丸いものがほとんどですね（[写真2]）。そこで、ピンポン球とバレーボールを、それぞれ小太鼓と大太鼓で跳ねさせてみると、どういう音が出ると思いませんか？ 楽器が壊れない程度にやってみてください。そのとき、球の動きと、君の腕の動き方にも注目してほしい！

[写真2]



先がとがっていたり、四角いものはないよね？

小太鼓ではピンポン球の方が、小太鼓「らしい」音がして、大太鼓だとバレーボールの方が大太鼓「らしい」音がすると思います。ここで考えてみましょう。ボールには大・小種類がいろいろあるし、マレットやスティックも大きさ・重さなど様々ですが、共通点は？

そう、たとえば「大太鼓マレット」として売られているものは、「大太鼓にちょうどいいマレット」の略なので、その楽器のために作られているものなのです。ボール

[譜例]



もその種目に適した大きさや材質になっているわけで、あとは「君の体の使い方が適しているか？」ということ。

難しく考えることはなくて、ボールや楽器に対するそれぞれの手の動きが大事なのです。これから先、大太鼓やティンパニなどの楽器をここで取り上げるときも、しつこく言う予定です。先どりして、意識して演奏してみてください。

今まで、指でやったり、ボールでやったり、楽器とバチの当たり方（はね返り方）をいろいろ見てきましたが、当たる瞬間だけでなく、そこに向かうまでの軌道（道筋）も大事です。ボールでいうところの「ドリブル」ですね。[譜例]をスティックを用いてやってみましょう。

鏡の前に立って、自分の左右の腕の動きをよく観察してください。特に大事なものは、両手が同時に動くパターンです。左右が同じ振り幅になっているかが鏡を見ると一目瞭然！もうひとつ、皮の張った楽器（小太鼓、ティンパニなど）では、両手で同時に皮を打つことが、張力の都合で難しいです。そういう意味でも練習台は重宝しますね！ ゆっくり、大きい振り幅から、すばやく小さい振り幅まで、て・い・ね・い・に。

今月も、最後に「今日からできるワンポイント」。練習台の的を、いつもより小さくしてみよう。ペットボトルの「ふた」くらいの大きさがいいと思います。小太鼓、大太鼓、ティンパニなど、鍵盤楽器に比べて、ぱっと見たところ、音が出る的は大きいですが、狙うべき場所はバチを当てる（「当たる」ではない）、その1点だけのはず。何気ない練習だけではなく、1点を狙う、集中した密度の濃い練習もお勧めします。